

在住外国人も地域住民のひとりとして、ともに地域づくりに関わるための取り組みが進むなか、昨今の経済情勢を反映し、彼らを取り巻く環境の変化を受けて、地域づくりは新たな局面を迎えているといえます。

今回は、平成20年度国際文化系研修「第3回多文化共生社会対応コース」にてご講義いただいた池上重弘氏に、研修の内容を踏まえ、外国人集住地区の一つである美濃加茂市古井地区での、外国人住民を交えた地域座談会の様子について、あらためて誌上講義を行なっていただきます。

岐阜県美濃加茂市古井地区における多文化共生の取り組み

―座談会の立ち上がりと 1年目の歩み―

静岡文化芸術大学文化政策学部 教授
池上 重弘



1 はじめに

「心と心がささえ合う地域づくり～今、いっしょに何ができるか～」

これは、2009年2月1日に美濃加茂市で開催された古井（こび）地区多文化共生推進座談会（以下、座談会）の活動報告会のテーマである。一見すると、とくに目新しいところもなく、目を引くフレーズが光り輝いているわけでもない。しかし私は、このテーマこそ1年に及ぶ座談会の精神を的確に表すフレーズだと考えている。2008年秋以降の深刻な不況下で仕事を失い、生活基盤が崩壊する外国人市民を目の当たりにした地域住民だからこそ、同じ目線で「今、いっしょに何ができるか」と問いかけることができるからだ。

この誌上講義では、美濃加茂市古井地区で2008年度に立ち上げられ、私自身がアドバイザーとして1年間関わった座談会の様子を紹介し、地区を単位とする多文化共生の取り組みの成果と課題について考えたい。

座談会の活動の丹念な記述が本稿の主要部分を構成するが、それに先だって美濃加茂市と古井地区の特色をまとめ、美濃加茂市における多文化共生の取り組みを概観するところから始めよう。

2 美濃加茂市と古井地区の概要⁽¹⁾

美濃加茂市は岐阜県南部に位置し、飛騨川と木曾川の合流地点付近に市街地が形成されている。名古屋からは車で約90分、JRでは高山本線を利用できる。市内には電子機器の大手企業の工場が立地し、近隣市には輸送機器関係の工場も多数操業している。

座談会が立ち上がった2008年度当初（2008年4月1日現在）と金融危機以降の急激な景気後退下の現状（2009年4月1日）を比較しながら、美濃加茂市における外国人登録者数の変動を把握しよう。2008年の総人口は5万5083人、そのうち外国人登録者数は5927人で人口の10.8%を占めていた。1割を超えるこの比率は全国の都市自治体の中で最も高い。また年代別にみると、20歳代人口のうち約27%を外国人が占める点も特筆すべきである。国籍別内訳ではブラジル籍が3706人、フィリピン籍が1397人、中国籍が447人、韓国・朝鮮籍が121人、そしてペルー籍が111人となっており、ブラジル籍が外国人登録者数の63%、フィリピン籍が24%を占める。

2009年は総人口5万5398人のうち外国人登録者数は5976人で微増、比率も10.8%で2008年とほとんど変わらない。しかし国籍別内訳をみると、ブラジル籍が3530人に減少、他方

(1) 坂井嘉己「外国人集住都市会議の課題と今後」『地域国際化を考える研修会2008報告書』特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター他（KFC）、1-11頁（2009年）及び同報告書資料編と、美濃加茂市多文化共生課提供の資料を参照した。

フィリピン籍は1584人に増加、中国籍も515人に増えている。ただし、現行の外国人登録法では帰国ないし国内他都市に移動しても外国人登録状況には即座に反映されないしくみとなっているため、実際にはブラジル人の減少はさらに大規模である可能性が高い。

外国人市民の多くは、JR美濃太田駅や商業エリアが立地する太田地区とその東に広がり工場が多数立地する古井地区で、水田や畑の跡地に建てられた民間アパートに居住している。市内の地区別人口（2009年4月1日現在）と外国人比率を示した表1から明らかなように、古井地区は人口1万7179人のうち外国人が2748人を占め最多であり、外国人比率も16.0%で最高となっている。太田地区は外国人の人口が1621人、外国人比率13.4%でいずれも古井地区に次いでいる。他方で外国人比率が3%を下回る地区が8地区中4地区あり、市内でも外国人居住状況の地区別差異が大きい。

表1 美濃加茂市行政地区別人口・外国人割合

2009年4月1日現在

	日本人	外国人	地区別人口	外国人割合
古井	14,431	2,748	17,179	16.0%
太田	10,521	1,621	12,142	13.4%
加茂野	8,227	875	9,102	9.6%
下米田	5,290	512	5,802	8.8%
蜂屋	6,398	158	6,556	2.4%
山之上	2,631	38	2,669	1.4%
伊深	1,273	13	1,286	1.0%
三和	651	11	662	1.7%
計	49,422	5,976	55,398	10.8%
合計		55,398		10.8%

出典：美濃加茂市多文化共生課資料

3 美濃加茂市における多文化共生の取り組み

美濃加茂市は2007年度と2008年度の2年間、外国人集住都市会議の座長都市を務めたが、市としての多文化共生に向けての取り組みは経営企画部多文化共生室が担当していた(2009年度からは市民協働部多文化共生課に変更)。基礎的な業務としては通訳・翻訳・相談をは

じめ、ポルトガル語版広報やホームページによる情報発信も行なっている。市の多文化共生施策の全貌をここで記すことはできないが、美濃加茂市における特徴的な取り組みとして教育分野の2つを取り上げたい。

市内で最も外国籍児童の多い古井小学校(2008年5月1日現在で75名)内に共生学級エスペランサ(希望の意味)が2003年4月から開設されている。これはいわゆる初期指導教室で、日本の学校に初めて入学する子や日本語が全く分からない子のために、簡単な日本語やひらがな、カタカナ、日本の学校での生活などを教え、市内の小中学校での学校生活に適應できるようにすることを主たる目的としている。また、通級する子の保護者に対する就学情報の提供なども行なっている。

民間レベルの団体として、2002年に市内在住のブラジル人有志が設立した「ブラジル友の会」(以下、友の会)がある。友の会は日本の学校に通う外国籍児童生徒をとりまく問題に関心を持って活動するボランティア団体で、行政、企業、日本人、ブラジル人コミュニティ等の支援・協力のもと、ポルトガル語教室、学用品貸与、進路相談、学習支援等を実施している。代表やメンバーは県内外のシンポジウムやセミナーで講演したり、パネリストとして招待されることも多い。⁽²⁾

さて、市では2007年7月、市議会代表、地域住民代表、市民団体、学校関係者の他、公募委員6名を含む14名からなる「美濃加茂市多文化共生推進プラン策定委員会」(以下、プラン策定委員会)を設け、ほぼ1年半後の2009年3月、『多文化共生推進プラン』を完成させた。これは総務省が2006年3月に策定した『地域における多文化共生推進プラン』を下敷きとするものだが、「新しい仲間と笑顔でくらすまちづくり」を基本理念に、地域、経済界、行政といった多文化共生推進の担い手の役割を明記した上で、コミュニケーション支援、生活支援、多文化共生の地域づくり、多文化共生推進体制の整備という4つの基本施策と83項目の具体的施策、そしてその推進

(2) 友の会発行のパンフレットを参照した。

主体を定めている。⁽³⁾

このような取り組みが進む一方、プラン策定に関連して2007年度に日本人市民を対象として実施した「在住外国人との共生について」という市民アンケート調査（1500人を無作為抽出、回収率は50.2%）では、隣近所に在住外国人が増えることについて「不安である」との回答が48.6%に達し、「良いことだと思う」との回答はわずか1.3%しかなかった。一方、日本人住民側に求められる取り組みとしては「生活習慣や文化などの相互理解を深める」という回答が32.2%、「地域のルールなどを情報提供する」との回答が29.8%を占めた。

日本人側の不安を少しでも解消し、相互理解を深め、地域ルールの情報提供も図ることができるよう「顔の見える関係づくり」を目指して、2008年度になって座談会が立ち上げられた。こうした座談会は美濃加茂市では初めての企画であった。古井地区がモデル地区に選ばれたのは上述のように市内で最も外国人が多いという理由によるが、人的要因も重要である。実はプラン策定委員会メンバーのうち4名は古井地区の住民であり、座談会においても中核的メンバーとなった。つまり、プラン策定に向けての集中的な議論が、古井地区における座談会立ち上げの大きな契機となったとすることができる。

4 座談会の活動

(1) 目的と方法

座談会事務局となる多文化共生室（当時）の当初の構想はごくシンプルなもので、第1回座談会で示された目的と方法は以下のような内容であった。

【目的】 外国人が特に多く暮らす古井地区において事業を集中的に展開することにより、多文化共生社会の形成の推進を図る。具体的には「お互いに顔の見える関係づくり」を行うことにより、「誰もが安心して生活できる多文化共生社会」の形成を目的とする。また、地域における多文化共生推進のキーパーソンの

育成を図る。

【方法】 日本人住民と外国人住民が共に地域で暮らす生活者として、同じ課題について共に考え、一緒に知恵を出し合い、行動をしながら課題を解決してまちづくりを行う。日常的・経常的に多文化共生推進が図られるようにキーパーソンを育成する。

第1段階：課題の整理…座談会の開催により地域の課題を抽出し整理。

第2段階：課題解決についての試み…学習会の開催、ワークショップ、地域行事の活用等。

第3段階：日常的・経常的に顔が見える関係の構築、キーパーソンの育成→誰もが安心して生活できる多文化共生社会。

(2) メンバーと運営方法

座談会メンバーとして当初23名が名簿に記載されていた。内訳は、民生委員6名、自治会関係者6名、PTA関係者4名（このうち1名は日系ブラジル人）、プラン策定委員3名、地区選出の市議会議員4名である。民生委員や市議会議員がメンバーとなっている点がこの座談会の特色と言える。一方、外国人住民の参加は1名だけだった。

その後回を重ねるなかで、学校関係者やブラジル人住民の参加も増え、最終的には座談会名簿に名前を連ねた人数は34名に達した。もちろんその全員が毎回参加したわけではないが、各回20名前後のメンバーと事務局スタッフ等数名の参加で座談会が行われた。

実際の座談会では、発言しやすい雰囲気を作るためにワークショップ的な手法を採用した。つまり、開始時の趣旨説明や活動報告等はレクチャー型のテーブル配置だが、意見交換時にはくじ引き等によりランダムにグループを分け対面型にテーブルを配置した。最後は各グループの声を出し合う全体討論を行ない、議論の共有を図った。この方法はメンバーの主体的参加意欲を引き出し多様な意見を抽

⁽³⁾ 総務省のプランおよび自治体のプラン策定については、池上重弘「自治体における多文化共生推進プランのつくり方-静岡県磐田市の事例を参考に-」『国際文化研修』第62号：14-17頁（2009年）を参照。

出する上で効果的だった。

(3) 各回の内容

2008年5月29日の第1回を皮切りに、他都市視察や活動報告会を含め、年度内に計10回の座談会を開催することができた。以下では各回の内容をかいつまんで紹介しよう。

【第1回】 この回は第1段階、つまり課題の整理に相当するディスカッションを行なった。まず座談会の目的について事務局より説明があり、美濃加茂市における外国人の状況や市民意識調査の概要等が紹介された。その後くじ引きにより3つのグループに分かれ、日頃感じていることや多文化共生をめぐる地域の課題について意見を交換した。その結果、以下のような課題が挙げられた。子どもの日本語教育、子どもを通じての交流活動、地元イベントへの参加誘導と継続的な交流、老後と進学、コミュニケーションのきっかけとしての挨拶、短期滞在者への対応、自分からの働きかけ、ブラジル文化理解等である。

【第2回】 ここからは第2段階、つまり課題解決に向けての試みに相当する。7月5日は外国人住民からの課題提起を軸としてグループ討論を行なった。前述の友の会の中心メンバーでもあるブラジル人メンバーやプラン策定委員も務めた日本人メンバー等がこれまでの活動内容を紹介し課題を提示した。その後のグループ討論では、定住化の進展に伴い外国人の子どもたちの教育と就職が大きな課題となっていること、日本人側が醸し出す「壁」は自分たちが考えている以上に外国人側から見ると高いものであること等が話し合われた。

【第3回】 8月2日の土曜日、地域行事活用の一環として、外国人が多数就労している大手企業の地元工場敷地内で開催されるサマーフェスティバルを見学した。

【第4回】 9月13日のこの回は先進事例学習の機会として、静岡県磐田市における多文化共生の取り組みについて学び、同市との対比を念頭において意見を交換した。筆者が磐田市

多文化共生社会推進協議会会長を務めていることもあり、座談会の活動の一環として美濃加茂市と磐田市の市民レベルの交流を図る企画が浮上したのである。磐田市は人口20万人規模の中規模都市ながら、行政、学校、自治体、市民団体の連携のもと、市全体で一体感を伴った多文化共生の取り組みがここ数年で急速に進展している。⁽⁴⁾

【第5回】 11月7日の第5回は、コミュニケーションを図り胃袋からの異文化理解を試みるため、市内のブラジル料理店でブラジルの料理を味わった。座談会メンバーの多くは、この時初めてブラジル人が経営する店舗に足を踏み入れた。ブラジル文化の一面を理解する上で貴重な機会となったし、磐田市視察に向けての話し合いの機会にもなった。

【第6回】 11月30日、先進地視察として23名が磐田市を訪問した。午前中は磐田市多文化共生交流センターを視察、午後は磐田市役所にて磐田市側の自治会関係者、民生委員、多文化共生および自治会関係の市職員ら17名と意見交換の機会を持った。磐田市側からは座談会に民生委員が参加している点を評価する声が聞かれた。美濃加茂市側からは、子どもに焦点を当てた多文化交流センターの活動や強力なリーダーに率いられた活発な自治会活動に強い関心が寄せられた。

【第7回】 12月20日のこの回では、磐田市視察の感想などについて意見交換を行なった後、2月1日に予定している活動報告会の企画を練った。この日特に時間を割いたのはテーマとパネリストの検討だった。

【第8回】 2009年1月21日の座談会は、2月1日の活動報告会の事前打ち合わせに充てられた。パネリストの発言内容や当日の報告会の進め方について確認した。さらに裏方に回るメンバーの役割分担を決めた。

【第9回】 2月1日午後、市の中央公民館を会場に活動報告会が行われた。別室にてポルトガル語通訳も用意したためブラジル人参加者も多数来場したし、市長、副市長、教育長ら

(4) 磐田市の多文化共生施策については、月花慎二「市民とともに築く多文化共生のまちづくり-磐田市の取組-」『ジュリスト』1350：45-49頁（2008年）が手際よくまとめている。また、池上重弘編『静岡県磐田市における多文化共生-これまでの軌跡とこれからの課題-』静岡文化芸術大学（2009年）も参照。

市幹部も最後まで参加して議論を共有した。「多文化共生と地域の力」と題した筆者の基調講演の後、4名の座談会メンバーがパネリストとして登壇し活動報告を行なった。まずパネリストが、①これまでの活動や現在取り組んでいる活動の報告、②活動に関わるきっかけ、③活動前後の考え方の変化、④今後取り組みたいこと、⑤来場者に伝えたいことの5点について発言した。その後フロアの座談会メンバーや一般の参加者からの質問やコメントを受けた。ブラジル人参加者からは「自分たちのことを日本で生きていく移住者としてみてほしい」という発言があり、太田地区の民生委員からは「私たちもこのような会を作りたい」との発言もあった。⁽⁵⁾

【第10回】2008年度最後の座談会は3月6日に行われた。活動報告会の反省と今後の活動方針の検討が主な議題で、次年度も活動を継続させることが確認された。

5 座談会の成果と課題

全10回の座談会を通して、メンバー間の意思疎通は十分に図られたと評価できる。磐田市視察は先進事例視察であると同時に、自らの取り組みを客観的に見直す機会にもなった。また、活動報告会の実施により、「なにかひとつのことを形にする仲間」としての意識が強くなったように感じる。座談会の目的として掲げられた「地域における多文化共生推進のキーパーソンの育成」はこの1年で成果が出たと言ってよいだろう。しかし他方で、「お互いに顔の見える関係づくり」はまだ端緒にいたばかりである。座談会には外国人市民の参加もあったが、点が見えている段階に過ぎない。今後はその点を増やし、地域での対面的関係を広げる必要がある。

2009年度も5月28日に新年度第1回の座談会が開催され、日本人25名、ブラジル人19名が参加した。また、太田地区でも座談会立ち上げに向けての胎動が始まった。座談会のような地区密着型の取り組みが、日常的に顔を合わせる関係をベースに新しい地域づくりの

プラットフォームとなる可能性を積極的に評価したい。

2008年秋以降の景気後退は日本で暮らす外国人、とりわけ製造業分野の非正規労働者として働いていたブラジル人に深刻な打撃をもたらした。しかし皮肉なことだが、この苦境は、好況下では実現しなかった状況の変化も引き起こした。日本で生きるために日本社会と真剣に向き合おうとする外国人が増えてきたし、ブラジル人同士が結束する動きも各地で現れてきた。また、そうした動きと連携を図り心からの支援を惜しまない日本人の姿も各地で見られる。美濃加茂市でも市民団体が緊急支援活動を精力的に展開したが、居住空間を共有する仲間としての関係づくりも欠かせない。その意味で、地区におけるさまざまなアクターの結節点としての性格を持つ座談会が今後のさらに強力な関係づくりの核となることが求められよう。



第2回座談会でのグループ討論の様子

著者略歴：

池上 重弘 (いけがみ しげひろ)

北海道大学大学院文学研究科修了。同大学院在籍中に文部省アジア諸国等派遣留学生としてインドネシア大学に留学（1990年～91年）。1991年北海道大学助手、1996年静岡県立大短大部専任講師、2001年静岡文化芸術大学助教授を経て、2008年より同大教授。静岡県多文化共生審議会委員、磐田市多文化共生社会推進協議会会長等。

インドネシアでの文化人類学的研究と並んで、日本社会の多文化・多民族化に伴う地域の課題を実証的に研究。近年では多文化社会への関心からオーストラリアのインドネシア人コミュニティにて現地調査を展開。主な著作に、『ブラジル人と国際化する地域社会—居住・教育・医療—』（編著、明石書店）、『国際化する日本社会』（共著、東京大学出版会）。

(5) 活動報告会の記録としてDVDと報告書が作成されている。問い合わせは美濃加茂市多文化共生課まで。